

# たまあじさいの会 お知らせ



2016年8月

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 2016年度 総会のお知らせ     | 1p-6p  |
| 多摩川リネン調査の測定結果とその考察 | 7p-8p  |
| MYケヤキの感情移入的観察      | 9p-10p |

\*\*\*\*\*

6月12日（日）青梅福祉センターで行われた「たまあじさいの会」の総会報告をお知らせします。昨年度の活動はかなり多岐にわたり、1998年の会の発足当初の「市民による環境調査」自らの命と環境は自らで守ろうという思いのもとに活動を続けています。  
皆さんの理解と支援により、継続的に様々な問題に取り組みたいと考えています

## 総会報告

### 総会に寄せて

代表 濱田光一

エコセメント化施設稼働差止め裁判は、2016年2月24日付で最高裁から上告棄却・上告不受理決定の通知があり、実に13年に亘る長い裁判があっけなく終わりました。その間たまあじさいの会は、処分場周辺の様々な環境汚染調査を行い、この訴訟を全力で支えてきました。

1998年設立当時から、環境汚染の科学的解明を目的とするたまあじさいの会は、日の出町二ツ塚処分場開設に伴う周辺環境の調査活動を開始しています。

それが、2011年の福島原発事故以来、エコセメント施設がもたらす広域の化学物質汚染調査から、放射能汚染の実態調査に力点が移っていましたが、今年度の活動方針には、従来の重金属や有害化学物質の調査も盛り込まれることになりました。そしてこれらの調査結果に基づき、日の出処分場がもたらす環境汚染と住民の健康被害の実態を、ごみを搬入している三多摩25市町の400万の人々に知らせることが、問題解決の一步になると思います。

昨年度はそれを象徴するようなことがありました。福島以南相馬市、千葉の千倉市、東京調布から、ごみ処分場がもたらす環境汚染の実態を知りたいと、講演依頼が相次ぎました。その結果いずれの地区においても、講演を聞いて確信を得た住民が即座に活動に立ち上がり、環境調査を始めたり、日の出の処分場公害を知って支援活動を始めたり、千倉市は日の出処分場反対闘争から学び、住民が事業者の手続き上の瑕疵を徹底追及して、驚くことに処分場建設計画を白紙撤回させたことです。

これらは、たまあじさいの会の先駆的知見が功を奏したわけですが、私たちには、日の出の様々な経験と実績を紛争地から求められたら即座に知らせるという、重要な役割があることを自覚させられた一年でした。

---

## 2015年度活動報告

### 〈調査・測定活動〉

#### ・定例エコセメント化施設周辺の放射線測定

4月11日・5月9日・6月13日・7月11日・8月8日・9月12日  
10月9日・11月21日・12月12日・1月9日・2月13日・3月12日

#### ・多摩川放射線測定プロジェクト

- ・6月20日（土） リネン布多摩川河川水調査（設置）  
川井、平井川合流、八王子水処理センター、砧浄水場取水口
- ・6月21日（日） リネン布回収
- ・6月27日（土） リネン布回収
- ・10月17日（土） リネン布による多摩川の放射線測定  
上流、中流、下流、砧浄水場
- ・10月20日（火） リネン布回収
- ・1月11日（月） 多摩川放射線一斉調査 リネン布設置  
上流、中流、下流、砧浄水場
- ・1月14日（水） リネン布回収

#### ・チビタムムシプロジェクト

- ・7月16日（木） 山梨県森林総合研究所 主管研究員の大沢正嗣氏訪問

- ・ 8月11日（火） 富士フィルム自然環境センター（ 富士フィルム助成 ヒヤリング）
- ・ 8月21日（木） 緊急運営委員会  
チビタマプロジェクトに関わる地権者に対する対応及び今後の活動の  
進め方。
- ・ 8月29日（土） ヤノナミガタチビタマムシに関する講演会 講師濱田
- ・ 8月30日（日） 現地調査及び作業
- ・ 10月4日（日） 第34回 市民環境問題講演会 青梅福祉センター  
「樺の食葉性害虫による被害の実態と対策」  
講師 山梨県森林総合研究所主幹研究員 大澤正嗣氏
- ・ 10月20日（火） 緊急運営委員会  
調査方法の検討
- ・ 10月25日（日） チビタマ勉強会 講師 土屋大二氏  
八王子イチョウホール
- ・ 2月14日（日） チビタマムシ冬季調査 ・
- ・ 2月21日（土） チビタマムシ冬季調査
- ・ 2月27日（土） チビタマムシ冬季調査  
樹上調査

#### ・水質調査

- ・ 11月 5日（木）水質事前調査
- ・ 11月 8日（土）水質一斉調査  
調査講評・及び講義「行政が作った環境論議のウソ・ホント  
はこんなにある」瀬戸昌之氏

#### ・絵本チームの活動

2015年

- ・ 4月26日
- ・ 5月20日（映画「水からの速達」鑑賞）
- ・ 5月27日（ごみ問題について学習会）
- ・ 6月10日、・ 7月1日、・ 8月1日、・ 10月21日、・ 11月18日、
- ・ 11月22日（二ツ塚処分場見学）、
- ・ 12月10日
- ・ 1月7日（講演会「微生物について」講師瀬戸昌之氏）
- ・ 2月10日
- ・ 3月9日

## ・南相馬支援活動

- ・ 9月5日（土）～6日（日）南相馬講演事前調査
- ・ 9月21日（月）南相馬ウィザード設置
- ・ 12月16日（水）～17日（木） 学習会講演
- ・ 2月19日（金）～20日（土）南相馬環境調査

## 〈その他の活動〉

- ・ 6月13日（土） 国分寺労政会館  
「生ごみリサイクル in 多摩」参加
- ・ 6月28日～6月29日 ごみ弁連全国大会 岡山
- ・ 7月11日（土） 国分寺労政会館 参加
- ・ 8月23日（日） ホームページ学習会 竹林舎
- ・ 10月23日（金） 千倉最終処分場にかかわる出前講座
- ・ 12月12日（土） ホットスポットファインダーによる処分場周辺調査
- ・ 1月24日（日） ホットスポットファインダー学習会
- ・ 2月7日（日） ホットスポットファインダー講習
- ・ 3月10日（木） 「たまあじさいは見ていた」英訳HPの打ち合わせ
- ・ 3月17日（木） 英訳HPの打ち合わせ
- ・ 3月18日（金） 「放射能と多摩のゴミ問題を考える」 講演会  
主催：原発のない暮らし@ちょうふ
- ・ 3月23日（水） 日本地理学会巡検 エコセメント工場、谷戸沢処分場



## 2015年度 「たまあじさいの会」 会計報告

(2015年4月～2016年5月まで)

代表 濱田光一 伊東明子

会計 山口隆幸

## 収支計算書

## 収 入

| 項 目   | 内 訳           | 金 額 (円) |
|-------|---------------|---------|
| 会 費   | 個人会費会員 50名分   | 50000   |
|       | 賛助会費会員 44名分   | 88000   |
| カ ン パ | 17名分          | 54000   |
| 活動助成金 | パタゴニア助成金      | 548600  |
|       | 富士フィルムファンド    | 1200000 |
| 雑 収 入 | 資料販売・出前講座謝礼など | 3300    |
| 収入 合計 |               | 1943900 |

## 支 出

| 項 目    | 金 額 (円)                                |
|--------|----------------------------------------|
| 調 査 費  | 放射能測定器具・活動費など 292661                   |
| 学習・研修費 | 講師謝礼・会場費・書籍・研修会参加費など 141060            |
| 分析・研究費 | 水質・雨水・放射能分析委託費など 410800                |
| 広報・通信費 | お知らせ印刷・送料費、出前講座・展示費用、ホームページ委託など 133207 |
| 運 営 費  | 会議・事務費・ちくりん舎の使用料など 44000               |
| 分 担 金  | 放射能測定室ちくりん舎団体会費・指定カンパ(高木基金) 30000      |
| 支出 合計  | 1051728                                |

## 残 高

|         |         |
|---------|---------|
| 前年度繰越金  | 509203  |
| 収 入 合 計 | 1943900 |
| 支 出 合 計 | 1051728 |
| 残 高     | 1401375 |

会計報告が適切であることを監査いたしました。

2016年 6月 9日

会計監査

手塚俊明

## 2016年度 活動計画

### 継続的に行う調査

- ・ 処分場周辺の水質調査
- ・ 処分場周辺の定点放射線調査
- ・ ヤノナミガタチビタムシに関わるプロジェクト
- ・ 多摩川流域放射線調査
- ・ 絵本プロジェクト
- ・ 南相馬環境調査（土壌、水質、気象）
- ・ プラムボックス他青梅市の樹木調査

### 新たに行う調査

- ・ 広口瓶、リネンによる降下物質捕捉調査

### 広報の充実

- ・ ホームページ  
英訳「たまあじさいは見ていた」のアップ
- ・ 講演会、出前講座等による広報  
三多摩への発信

---

## 2016年度 会の構成

|      |      |      |
|------|------|------|
| 共同代表 | 下向辰法 | 古澤省吾 |
| 事務局  | 山口隆幸 | 安藤隆  |
| 会計   | 雨宮啓子 |      |
| 会計監査 | 手塚俊明 |      |

- ・ 運営委員会開催、お知らせの発行、名簿の管理 山口・安藤
- ・ ホームページの運営 森本
- ・ 外部との連絡調整 濱田
- ・ 分析調査の依頼 中西
- ・ 活動資金助成団体との関係 濱田・古澤・中西
- ・ データのまとめと管理 水質関係 下向 定例放射線測定関係 手塚

## MYケヤキの感情移入的観察

古澤省吾

この数年来、青梅市の多摩川流域、日の出町、五日市、飯能市の名栗川流域にヤノナミガタチビタマムシによる、著しく深刻なケヤキの食葉被害が見られている。ケヤキの木は真夏であっても食葉被害に遭ったら潔く自ら落葉して我が身を守る。昨年までは一年間に二回も、三回も落葉と季節外れの新しい芽吹きを繰り返す個体もあった。そしてその都度、年毎に当然のことながら樹勢は弱まってくる。青梅市の梅林を全滅させたプラムボックスウィルスの被害と同様に異常な深刻な事態である。このままではこの地域から梅と同様にケヤキが全滅とまでなりかねないと危惧する。この被害が発生している地域の行政はまず何も動いていない。ならば、問題意識のある市民が立ち上がるしかないではないか。まずは事態の把握と調査・研究、そして対策。この問題の対象とするところは地域も広く、植物と昆虫の生態ゆえに複雑難解で深い。しかしこの事象の問題提起をすると、自然を愛する多くの人々の関心を引き、協力も得られるかもしれない。そのためには広報活動も必要となる。さいわい富士フィルム・グリーンファンドの支援も得られた。暗中模索ながらも有志で活動をするしかない。まずは手始めに有志の皆様の身近にケヤキをMYケヤキと定めて、定点観察を呼びかけてある。ミクロを集めるとマクロが見えてくるかもしれない。

昨年から今日までのたまあじさいの活動内容、またMYケヤキ運動については、また別の機会で発表することになるが、今回は筆者の身近にある、ゆえにほぼ毎日観察している一本のケヤキについて紹介してみる。大袈裟に言うと植物ではあるが、その生き様についてである。（なにも筆者の生き様について語ろうとするのではないのでご安心願いたい）生育地は青梅市柚木町二丁目、つまり多摩川の右岸（南側）の川面を30m程眼下に見下ろす急峻の崖に、ケヤキの特長そのものに高く広く空に伸びていて美しい。樹齢は50年は下らないであろうが、まだまだ若々しい伸び盛りの育ち盛りである（筈）。しかしこの数年、このMYケヤキはチビタマムシの執拗な食葉害に見舞われていた。詳細には記録していないが、この数年は一年に数度の芽吹きと落葉を繰り返していた。健気だと気の毒にとも思ったことは、一昨年だんだんと秋も深まる頃、食害で痛んだ葉を自ら落葉するとの手段を選択したそのケヤキは、それでも残り僅かな光合成を求めて、その年は確か三回目の新たな芽吹きを試みたことである。しかしその季節外れの若葉が十分に展開しようとするかしないかのうちに、無常にも木枯らしが吹くことになった。チビタマに襲われて落葉と芽吹きを繰り返すうちに、そのケヤキの葉は確実に小ぶりに



薄くなってくる。被害のない健全な個体の葉っぱと比較すると、同じ種とは思えないほど貧弱で、最後は落葉も出来ないまま見るからにみすぼらしい、無残な景色となる。樹木ならば芽吹きと枝葉と幹の成長への『投資』が、太陽と雨と空気と土の恵みと助けを借りて行う光合成により『生産物』を産み、特に日照りや病虫害などの災難に遭わない限り『剰余価値』として樹木内部に蓄えられる。農民は一・二年の不作には耐えられるが、三年続くと飢饉となる。筆者の近所にある美しく成長途上にあったMYケヤキは、昨年末には徹底的に打ちのめされていて最早終末観を呈していた。梢は細くなって生きているのか枯れているのかも判じがたかった。桜花が終わったあと、けやきの芽吹きは4月中旬から始まったが、MYケヤキについては蕾そのものの存在も判じがたいくらいに目立たない。昨年まで持てる全財産を投資に回し勝負に出て、悉く裏目に出て失敗し、人間ならばもはや破産したと同じことだろうとあきらめた頃、近所の仲間より二週間も遅れて4月24日に漸く目立たぬような謙虚な芽吹きが確認できた。しかし僅か三日後の27日には一匹目のゴマ粒大ながらも諸悪の権化のようなチビタマを発見した。ようやく最後の力を振り絞っての芽吹きも、悪魔の餌食になってまた丸坊主になってしまうのかと、筆者まで無力感を覚えてしまったが、その後の経過が明らかに違う。昨年までと、また本年であっても他の場所とは異なるようだ。チビタマは発見されたものの、その後数日間は何処かに去ったかのように見つからなかった。不思議なことに、小ぶりの可憐な若葉にも食用害が見受けられない。5月1日にはチビタマを再発見し、食葉害もとうとう見られたが、その後今日(7月18日)まで葉の表面積の食害で見ると10～15%ほどの被害に留まり、目立つような落葉も見られない。6月の期間のほとんどはチビタマも観察されなかった。何か目に見えない大きな力が、チビタマの種の本能に対して働きかけているのか、それともこの貪欲極まりないチビタマを忌避するような、生命体として一個の生物として、何かの生きるための工夫をしているのだろうか。とにかくこのケヤキは今年はしたたかに頑張っている。これも大いなる自然の摂理かと感心しつつ、観察をしている。



ヤノナミガタチビタマムシ



ヤノナミガタチビタマムシの幼虫



## 多摩川リネン調査の測定結果とその考察

中西四七生

**概論：**エコセメント化施設には、福島第一原発事故以降三多摩地区全域が放射能汚染されたため、各地域の清掃工場で燃やされた汚染廃棄物が高濃度に濃縮された灰が投入されてきた。施設での処理工程で、汚染物質の一部はバグフィルターを潜り抜けて大気中に、水処理工程で大量の放射性物質（特にセシウム）は公共下水道を経由して八王子の水再生センターから直接下流に取水口を持つ多摩川に大量に排出されている。

一般に、水中にかなり高濃度排出されたセシウムでも、検出するのは難しい。粘土（シルト）や浮遊物質（SS）に取り込まれ水中からはほとんど検出されないことが知られている。そこで、試行錯誤した結果、当会の古澤氏の着想によるリネン布による水中のセシウム吸着法で、試みるようになった。

### 測定結果：

測定日 2015 年 10 月 20 日 72 時間設置  
日 72 時間設置

測定日 2016 年 1 月 14

| 測定場所   | Cs134 | Cs137 | Cs合計 | 重量    |
|--------|-------|-------|------|-------|
| 一ノ瀬溪谷  |       |       | 0.0  | 125.7 |
| 川井     |       |       | 0.0  | 123.2 |
| 平井川合流  |       | 1.0   | 1.0  | 123.6 |
| 羽村     |       | 1.1   | 1.1  | 157.2 |
| 秋川合流   |       | 2.3   | 2.3  | 123.9 |
| 八王子合流  | 0.9   | 4.0   | 4.9  | 118.4 |
| 昭島水再生  | 1.8   | 7.7   | 9.5  | 112.7 |
| 浅川合流   | 2.7   | 10.5  | 13.2 | 133.8 |
| 砧      | 4.8   | 19.6  | 24.4 | 154.9 |
| 八王子放水路 | 10.5  | 49.7  | 60.2 | 152.5 |
|        |       | 平均値   | 11.7 | 132.6 |

| 測定場所      | Cs134 | Cs137 | Cs合計(Bq/kg) | 重量(g) |
|-----------|-------|-------|-------------|-------|
| 一ノ瀬溪谷     |       | 0.6   | 0.6         | 124.2 |
| 昭島合流      |       | 0.7   | 0.7         | 118.7 |
| 砧         |       | 1.8   | 1.8         | 137.8 |
| 浅川合流      |       | 2.0   | 2.0         | 132.4 |
| 調整池       |       | 2.3   | 2.3         | 121.9 |
| 八王子水処理合流  |       | 2.4   | 2.4         | 122.2 |
| 羽村        |       | 2.8   | 2.8         | 140.9 |
| 昭島水処理放水路  |       | 2.8   | 2.8         | 117.7 |
| 根川（合流）    | 0.6   | 4.3   | 4.9         | 130.1 |
| 平井川合流     | 0.8   | 4.2   | 5.1         | 132.2 |
| 秋川合流      |       | 5.8   | 5.8         | 140.0 |
| 八王子水処理放水路 | 1.3   | 5.3   | 6.6         | 123.6 |
| 根川（本流）    | 1.3   | 6.5   | 7.8         | 125.1 |
|           |       | 平均値   | 3.5         | 128.2 |

### （ア）多摩川への汚染の経路

多摩川への放射性物質の流入経路は、福島第一原発から現在直接排出がないと仮定すると、以下のように考えられる。

- すでに 3011 年 3 月の事故により三多摩地区が広域に汚染された結果剪定枝などのごみが焼却され、その過程で排出される放射能による支流に沈着され多摩川本流に流入する。
- 降雨により屋根や土壌に沈着した放射能汚染物質が、支流を経由して多摩川本流に流入する。

3. 三多摩地区が広域に汚染された結果剪定枝などのごみが焼却され約 10 倍ほどに濃縮された焼却残さが、日の出町のエコセメント化施設での処理水中に大量排出される放射性物質が、八王子水処理センター経由で多摩川に流入する。
4. 日の出町のエコセメント化施設の煙突から排出される汚染物質が、多摩川本流へ、支流の平井川、秋川経由で多摩川へ流入する。

#### (イ) 測定結果の考察

1. 多摩川最上流の一之瀬溪谷がセシウム合計の値が最も低い。
2. エコセメント化施設からの下水処理施設からの放流水が高い。
3. 根川本流が 2 度目（今回初めて測定）の測定で最も高かったのは、日野クリーンセンターの脇を流れていることが影響していると考えられる。日野クリーンセンターは 1987 年に稼働し老朽化した施設で、焼却灰と飛灰のセシウム合計は、三多摩地区の焼却施設の中で最も低い値である。したがって周辺への放射能を最も多く排出していると考えられ、夜間根川沿いに放射性物質が沈着することが考えられる。

#### (ウ) 今後の方向

セシウムは、河川中のラン藻、珪藻に取り込まれることが知られている。3 日間の設置中に、砒、八王子水処理放水路、羽村、秋川合流など付着藻類が多く捕獲された。これらのことも考え合わせて測定を継続していく予定である。

### リネン布による多摩川放射線測定ポイント

